

副議長（岩間成行君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、36番梶山昭一君の発言を許します。

〔36番 梶山昭一君登壇〕

36番（梶山昭一君） 36番梶山昭一でございます。発言通告に従いまして、質問をさせていただきますが、本日傍聴に来られている方々を初め、市民の皆様のためにも、実のある答弁を期待するものであります。

それでは、質問に入ります。初めに、本年度の新規事業の1つであります適応教室開設事業についてお伺いをいたします。

2月16日の予算内示の説明の中で、適応教室開設事業は予算として787万2,000円盛り込まれておりましたので、私は、適応教室の事業内容が理解できないため、学校の空き教室を利用してはいかがでしょうかとお聞きしましたら、即大久保市長が、学校に通うことが嫌な生徒が使用するので、学校の施設では適応でないとご説明をされました。

その後、私も少し適応教室についての認識を得ることができまして、適応教室とは、さまざまな体験活動や運動を通して汗を流す体験、また、子供たちを学校へ行かせる場のつなぎのところじゃなくて、学校復帰のための訓練という考えばかりでなく、一番大切なのは、心のケアが一番必要じゃないかという理解をいたしました。そこで、私なりに認識した中から感じたことを何点か質問させていただきます。

初めに、旧誉田幼稚園を補修して使用し、適応教室として機能を果たすことと思いますが、現在の整備の進捗状況についてお聞かせを願います。

2番目といたしまして、適応教室は既に4月20日に開設されていることですが、適応教室に通う児童生徒は何人おられるのか、お伺いをいたします。また、適度な運動ができる体育施設の整備の状況について、あわせてお聞かせを願います。

3番目といたしまして、釈迦に説法になりますが、教育は人なりと言われますが、児童生徒には指導員の資質が重要であることから、児童心理などの専門的な研究を積んだ人材が必要であると思いますが、どのような方が指導に当たられているのかお伺いをいたします。また、このような方を計画的に育成していく必要があると思いますが、御見解をお伺いいたします。

4番目といたしまして、適応指導教育ばかりでなく、施設の中に保護者をサポートする相談室みたいなものを設置されると思いますが、その辺はどうでしょうか。また、子供だけが通えばよいという考えじゃなくて、親にもこの適応教室でケアを受けながら、また、相談を受けながらいくべきじゃないかと思いますが、いかがでしょうか、お伺いいたします。

5番目といたしまして、旧誉田幼稚園を補修するに当たり、それに若干関連した質問をさせていただきます。誉田幼稚園が廃園となり、今まで使用していた広い運動場がございます。その隣接する位置に誉田公民館がありますが、年間行事として、触れ合いを大切に相互の親睦を深めながら、さまざまな活動を行っております。そのため、公民館を使

用する方々の駐車場に不便を来たしております。そこで、適応教室に通う保護者の駐車場と併用して使用できる駐車場の整備をすれば、不便を来たすことに対応できますし、駐車場を効果的に生かすことができるのではないかと考えるのでありますが、いかがお考えかお尋ねをいたします。

終わりに、適応教室の名称については、どのような名前をつけられたのか、お伺いをいたします。

次に、地域子ども教室推進事業について質問をいたします。

子供たちにかかわる重大事件の続発など、青少年の問題行動の深刻化や地域や家庭の教育力の低下の緊急的課題に対応し、未来の日本をつくる心豊かでたくましい子供を社会全体で育てるため、平成16年度から地域子ども教育推進事業を開始、文部科学省も子供の居場所、いわゆる活動拠点づくりを推進するため、昨年度、国では予算125億円が盛り込まれました。

茨城県としては5,524万9,000円のうち、本市としては225万1,000円が事業費に盛り込まれました。平成18年度においては、茨城県が地域子ども教育推進事業に係る予算は5,207万4,000円で、そのうち当市では166万円の事業費となっております。この事業は、具体的には地域の大人の協力を得て、学校等を活用し、緊急かつ計画的に子供たちの居場所を確保し、放課後や週末等におけるさまざまな体験活動や、地域住民との交流活動等を支援する事業であります。

そこで、子供の居場所づくりに対応するため、心豊かな子供たちを育成する環境を効果的に整備するためには、学校、家庭、地域が一体となって子供と接することを可能とする拠点となる居場所づくりの推進が必要であると考えていかなければならないと思います。そこで、当市の動きは、今現在どのように推進をされておられるのか、また、活動の内容についてもあわせて伺うものであります。

次に、常陸太田市総合計画ほっとタウンひたちおたの実施計画書の中から、自然を活かし快適に暮らせるまち事業市道0101号大門幹線整備についてお伺いをいたします。

実施計画とは、ご承知のとおり、短期的視点から着実かつ効果的に実現するため、主な事業とその規模や実施年度を明らかにするもので、各年度の予算編成や事務執行の具体的な指針とするものであります。その中の実施計画の1つとして、道路整備交付金事業が盛り込まれております。施策としては、市町村合併支援道路整備事業として、合併市町村の一体化を促進するため、新市の公共施設等の拠点を連絡する道路、街路などについて、短期間で整備が図られるよう優先採択、重点投資を行う等、重点的に支援し、合併の効果を直接目に見える形で住民が認識できる事業であります。

平成18年度の予算は3億299万6,000円盛り込まれておりますが、その中で、市道0101号大門幹線道路については約1億5,000万円が本年度の事業として盛り込まれております。大久保市長は、施政方針の中でも、道路行政についてはすべての面で基盤整備の根幹をなすものであるため、今後一層道路整備の推進に力を入れてまいると述べら

れております。そこで、市道0101号大門幹線の進捗状況と、今後の整備のスケジュールについてお伺いをいたします。

終わりに、十国峠の整備についてお伺いをいたします。

新市は、森林や河川、田園など、豊かな自然環境に恵まれており、住民の自然に対する満足度も高くなっております。また、森林は水源涵養保安林などに指定されており、適正な保全を確保するとともに、特に落葉樹は治水対策の必須樹木と言われております。さらに、新市には独特な景観が数多くあり、生活と自然の接点となっております。

その中の1つとして、太田自然公園の中に十国峠公園がございます。十国峠公園の現状は、上大門町より上っていきますと、峠に向かいますと左側に大きな桜の木が54本ございます。その左側に、昭和47年に植樹記念として植樹された杉が大きくなっており、桜の木と杉の木が接近して日陰となり、桜の生育にも影響を及ぼしております。

また、この公園には、平成17年3月には県の補助金500万円、市の予算約500万円、計1,000万円の費用をかけて展望台を整備されました。現在では、周りの木も大きくなりまして、特に道路は昼間でも日差しが悪く、暗い感じがいたします。そのため眺望も悪くなっており、十国峠とは名ばかりであります。

そこで、2点お伺いいたします。営林署、森林署に対しまして、桜の木の近くの杉の木を伐採することについて要望をしたいと思いますが、いかがでしょうか。

2点目といたしまして、伐採した跡地には、治水の防止として落葉樹を植樹することを積極的に推進をお願いしたいと思いますが、ご見解をお願いいたします。

以上で、第1回目の質問を終わります。

副議長（岩間成行君） 答弁を求めます。教育長。

〔教育長 小林啓徳君登壇〕

教育長（小林啓徳君） まず、適応指導教室開設事業についてのご質問にお答えをいたします。

適応指導教室につきましては、4月20日に開設をしております。最初に、適応指導教室の整備進捗状況でございますけれども、旧幼稚園の施設の中で、児童生徒の状況等を考慮いたしまして、個別に対応するための相談室や学習室を新たに設けたところでございます。

次に、現在、適応指導教室に通級している児童生徒でございますが、中学生が4名でございます。今後の見込みといたしましては、6名程度と考えております。体育施設の整備については、旧幼稚園の遊戯室や園庭を体育施設として位置づけ、利用をしております。

次に、指導員等についてですけれども、現在指導員は、教職経験者1名と、カウンセラーの資格を持ち児童生徒と年齢の近い者1名の計2名と、さらに、スーパーバイザーとして、臨床心理士の資格があり、経験と実績のあるスクールカウンセラーにより対応をしております。指導員等の今後の人材育成の計画でございますが、当面、教職員経験者やカウンセラーの資格者などにより対応していきたいと考えております。

次に、適応指導教室への相談室の設置、また保護者への相談体制についてでございますが、施設内に個別に相談するための相談室を設置いたしました。また、専門の指導員やスーパーバイザーにより、児童生徒とあわせて保護者等への教育相談も行っております。

次に、適応指導教室に通う保護者と誉田公民館利用者の相互利用による駐車場整備につきましては、適応指導教室の事業運営に支障のない範囲を考慮し、関係課と協議しながら検討してまいります。

最後に、適応指導教室の名称でございますけれども、市の鳥であるカワセミにちなんで、かわせみくらぶと命名をいたしました。カワセミは、過酷な環境を生き抜く適応力、生命力を持つと言われております。また、常陸太田市の宝である子供たちが将来世界に大きく羽ばたいてほしいという意味を込めまして、命名をしたわけでございます。

続きまして、地域子ども教室推進事業についてのご質問にお答えをいたします。この事業は、本市の恵まれた自然、文化、歴史、産業などの地域資源を有効に生かし、さまざまな体験活動や地域に暮らす多くの人たちとの交流を通じ、子供たちに思いやりや自主性、協調性をはぐくみ、生きる力を身につけてもらうことを目的としております。

活動内容につきましては、地域と、地域で暮らす人たちとの世代を超えた交流を行う地域体験交流サークル事業では、お菓子づくり、そばの種まき、親子レクリエーションなどの事業を展開しております。また、本市の地域特性を生かした体験活動を行う子どもエコミュージアムクラブ事業では、田んぼづくり、焼き物づくり、動植物の自然観察などの体験活動を、公民館、PTA、地域の人たちの協力を得て実施しております。

なお、同様の事業といたしまして、金砂郷地区では、伝統文化体験学習として田楽舞、太鼓の体験学習、水府地区では、親子チャレンジ体験学習としてものづくり体験、動植物の観察、里美地区では、親子陶芸教室、ヤマメの稚魚の放流などの事業も実施しております。

活動の成果といたしまして、体験活動や地域で暮らす人たちとの交流などを通じて、子供たちの自主性や協調性を養うことができたものと思われまます。また、地域の大人が子供たちと一緒に活動することで、自分の子に限らず、みんなで地域の子を見守ろうとする意識が高まりつつあります。

今後も、地域教育力の向上と、子供たちが安全に安心して活動できる地域づくりの面から、公民館や地域の諸団体と連携をとりながら、推進してまいりたいと考えております。

副議長（岩間成行君） 建設部長。

〔建設部長 川又和彦君登壇〕

建設部長（川又和彦君） 自然を活かし快適に暮らせるまち事業市道0101号大門幹線整備についてお答えいたします。

この路線は、下大門堀ノ内地区と上大門大間ヶ沢地区を結ぶ延長約4.7キロメートルの重要な幹線道路となっているもので、これまでに第1期事業として下大門堀ノ内地区から広域農道までの約1.7キロメートルが供用されているところでございます。

現在、第2期事業として、広域農道から上大門萱野地区までの約700メートル、バイパス区間の整備を推進することとし、既に地権者の皆様方のご協力をいただき、用地の取得をすべて終了しておりますことから、平成17年度に約240メートルの改良工事を実施したところでございます。本年度は、引き続き約300メートル区間の改良工事の実施を予定しており、平成20年度末ごろまでには、第2期のバイパス区間の整備が完了する見通しとなっております。

残る第3期の上大門大間ヶ沢地区までの約2.3キロメートル区間の整備につきましても、地元の皆様の協力をいただきながら、早期に工事着手できるよう今後とも努めてまいります。

以上でございます。

副議長（岩間成行君） 産業部長。

〔産業部長 小林平君登壇〕

産業部長（小林平君） 4点目の十国峠公園の整備についてお答えいたします。

十国峠公園は、昭和30年、昭和の合併のあったころに、地域の住民によって整備されたのが始まりで、そのころから十国峠公園と呼ばれていると聞いております。その後、行政も加わりまして、公園の面積も拡大され、引き続き地域の皆様からのご協力をいただきながら清掃管理を行い、今日に至っております。

議員お尋ねの桜の木にかかっております杉の木の伐採について、森林管理署へ要請してはとのことにつきましては、森林管理署からは、植林木なので難しい旨の返事をいただいております。

なお、森林管理署に対しましては、平成17年度に茨城県環境政策課から、自然公園等における主要な展望地からの眺望障害に関する要望が提出されておりますので、これらとあわせまして、引き続き協議をしてみたいと考えております。

以上でございます。

副議長（岩間成行君） 36番梶山昭一君。

〔36番 梶山昭一君登壇〕

36番（梶山昭一君） ただいまは関係部長よりご答弁をいただきまして、ありがとうございました。何点か再質問をさせていただきます。

適応教室開設事業については、再度の質問をいたしますけれども、居場所がなく、また、いじめや不登校の原因となる子供の早期発見、早期対応についての解決策などについてはどのようにお考えになっているのか、お尋ねをいたします。

なお、児童生徒の指導に当たる職員については、経験豊かな先生とのお話でございましたが、この先生は臨床心理士の資格などはお持ちなのかどうか、お聞かせを願います。

また、誉田公民館の駐車場につきましては、前向きな方向でぜひお願いをしたいと思います。

地域子ども教室推進事業については、ただいま教育長からご答弁がありましたけれども、

地域交流体験サークルについては年何回ぐらい開催をされているのか、お尋ねいたします。

次に、自然を活かし快適に暮らせるまち事業の1つ、市道0101号大門幹線につきましては、ただいま部長より希望の持てる明るい答弁をいただきまして、ありがとうございました。しかし、当市においては、まだまだ道路整備は十分とは言えません。道路整備は、医療、福祉、観光、産業等各施策に通じるものであります。そして、社会経済の発展と密接にかかわる道路整備は、引き続き着実に推進されるようよろしくお祈りをいたします。

終わりに、十国峠の整備についてでございますが、ただいま小林部長より答弁をいただきまして、桜の木にかかる杉の伐採については、森林管理署からは、植林木となって伐採するのは難しいというお話でございましたが、森林組合としては、植林をして、育てて、木を売るのも目的の1つでございますので、市の財政は厳しいとは思いますが、将来のことを考え、その桜の木の近くの杉だけでも買収をすることについてのお考えはどうでしょうか。お伺いいたします。

以上で、私の質問を終わります。ご静聴ありがとうございました。

副議長（岩間成行君） 答弁を求めます。教育長。

〔教育長 小林啓徳君登壇〕

教育長（小林啓徳君） 再度のご質問にお答えをいたします。

まず、不登校の早期発見、早期対応についてということのご質問がございました。一たん不登校になってしまいますと、一般的に回復するまでに大変長い期間を必要としております。したがって、議員ご発言のとおり、早期発見、早期対応が極めて重要になってまいります。

不登校には至っておりませんが、登校してきても学級に入れず、保健室や相談室等で過ごしている中学生も何人か出てきております。また、回復しても人間関係等の不安が消えないために、人との触れ合いが極めて消極的な子供たちも出ております。そういう面から、早期発見、早期対応という面で、適応指導教室の効果的な運用に大いに期待をしているところでございます。

それから、2点目の、指導員は臨床心理士の資格を持っているのかということでしたが、これに対しましては、先ほど申し上げましたように、指導員2名については資格をもっておりませんので、したがって、持っているスクールカウンセラーの方の対応もしておるところでございます。

もう1点でございますが、地域子ども教室推進事業の年間の回数ということですが、およそ10回程度開催をしている状況でございます。

以上でございます。

副議長（岩間成行君） 産業部長。

〔産業部長 小林平君登壇〕

産業部長（小林平君） 再度のご質問にお答えいたします。

ただいま、植林木なので買ってはどうかというようなご意見でございましたが、この杉

の木，昭和40年植林といいますと，約34年というようなことでございまして，確かに利用等には向かない材料というようなことになるかと考えられます。事務的な話としましては，今，1立米当たり約1万円というなお話も聞いているところでございますが，それに伐採等に要する費用が当然かかるわけでございます。今後，これらの木の利用というものも含めまして，総合的な検討をさせていただきたいと考えておりますので，ご理解いただきます。